

令和3年度（2021年度）熊本市献血推進協議会 議事録

- 1 開催日時 令和3年（2021年）10月21日（木） 14時00分～15時30分
- 2 開催場所 ウェルパルクまもと 3階会議室
- 3 出席委員 野津原 昭、川田 晃仁、井芹 貴子、岡本 恭典、山川 李好子、大賀 健司、長谷川 力也
- 4 議 題
 - （1）令和2年度（2020年度）熊本市献血推進事業報告
 - （2）令和3年度（2021年度）熊本市献血推進事業計画
 - （3）各団体の献血推進活動等について
 - （4）熊本県内の献血状況について
 - （5）その他

5 議事録（要旨）

【事務局より】議題1 令和2年度（2020年度）熊本市献血推進事業報告の説明（会議資料P1～P3詳読。） 議題2 令和3年度（2021年度）熊本市献血推進事業計画の説明（会議資料P4～P6詳読。）

【質疑応答】

大賀委員1）熊本健康アプリは健康づくり推進課が昨年7月1日より開始したもので、アプリの登録者数や献血ポイントを付与された人数を教えてくださいと献血者数の増減についても把握できるがわかるか。

大賀委員2）会議資料P6の「（1）熊本市の献血量及び献血者数の推移」については、移動採血車で献血状況を表したもののなので、成分献血はできないのでこの項目は必要ないと思う。

大賀委員3）会議資料P6の「（2）熊本市の年代別献血者数の推移」の熊本市の総献血者数は、50代、60代の献血者数が伸びて増えているが、20代は減っている。その要因はどのように考えているか。

大賀委員4）献血ルーム（下通り献血ルームCOCOSA）の受付は17時までとなっており、20代も含め働いている方は、献血ルームが開いている時間内に行くことができず、仕事の日と別に時間をとって献血に行かなければいけない。時間的に問題があり、仕事帰りに献血ルームに若い人が行けるよう平日夜に時間を延長するなど取り組んでほしい。

事務局）新型コロナウイルスの感染拡大により街中の人流が減り、若い方が街中を歩いていないことも要因である。大学ではオンライン授業により学内に学生がいない。はたちの献血キャンペーンは成人式も中止で活動がほとんどできていない。分析が課題であり、事務局としても対応していないといけない。

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いて、人流が回復して改善するかどうか。改善しなければ原因を調査する必要がある。事務局として要因を考察していく。

(3) 各団体の献血推進活動等について（各団体から順に報告。）

①野津原会長

- ・医師会としては、なかなか活動できなかった。
- ・令和2年度、3年度には熊本市民健康フェスティバルとタイアップし、献血活動としてサクラマチクマモト（熊本城ホール）に移動採血車が来る予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、フェスティバル自体が中止となった。
- ・医師会独自でも、さらに何か取り組めないか考えていく。

②川田委員

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、店が開けられないなど企業の活動が制限され、また商工会議所としての活動を行うことができず、献血推進活動も行えなかった。

③井芹委員

- ・移動採血車が出向いた会場で各チーム競って活動している。献血ルームCOCOSA前での呼び込み活動も行った。
- ・高校献血に力を入れており、依頼も継続して行った。
- ・COCOSA前で「ミセスオブザイヤー」とタイアップして、ミセスオブザイヤー出場者と一緒に呼びかけ活動を行った。当日の献血者数は100人超と極めて多かった。

④岡本委員

- ・昨年度、若い方向けに熊本市地域献血推進連合協議会でオリジナルのクリアファイルを4種類作成した。校区献血に来られた方に配布しており、広がりを見せている。
- ・オリジナルクリアファイルは、3年間作成する予定で、さらに広がっていくと考えている。
- ・昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、校区献血が多くの校区で中止となった。

⑤山川副会長

- ・毎週月曜日に、下通り献血ルームCOCOSA前での献血呼びかけと、献血者への「みそ汁」提供を行っている。県外からの献血者に大変好評だった。使用していた調理スペースが今後使用できなくなるので、「みそ汁」の提供は10月末までとなる。献血者が増えてきたところであり残念である。
- ・献血ルームで渡すプレゼントづくりなど、細やかな活動を行っていく予定である。

⑥大賀委員

- ・献血推進ポスターの掲示と関連冊子の設置を、社会福祉協議会関連施設で行っている。
- ・熊本市地域献血推進連合協議会への助成金を継続していく。

⑦長谷川委員

- ・資料の熊本県学生献血推進協議会活動報告に従って説明した。
- ・例年と比べて令和2年度に実施できたイベントは、全国学生クリスマス献血キャンペーンの1回のみである。下通り献血ルームCOCOSAにて、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、クリスマスイメージさせる衣装による呼びかけに専念した。(受付者数219名・献血者数189名)
- ・大学からの制限により献血活動ができなかった。
- ・定例会はWebで月1回実施した。
- ・県内9大学で行われる移動採血車による学内献血は、東海大学、九州ルーテル学院大学、尚絅大学で中止であり予定されていた学内献血の内、移動採血車20台分が中止になった。
- ・熊本県立大学は、令和2年度より移動採血車を配車せず、県立大WEEKと題して献血ルームへの呼びかけを実施した。

【質疑応答】

野津原会長) コロナの感染拡大が落ち着いてくると、今までのように不要不急の外出制限もなくなり、延期を余儀なくされていた手術の実施も増えてくる。自己血貯血もあるが、血液が不足することがあるかもしれない。今後も献血は、日赤と連携し安定して確保することが重要である。

(4) 熊本県内の献血状況について (報告)

- ・熊本県赤十字血液センター早川献血推進課長が血液事業の現状について資料に従って説明した。
- ・少子高齢化が進んでいき、また地震や台風、豪雨、阿蘇山の噴火などの自然災害が発生し規模も大きくなっている。さらに新型コロナウイルス感染症の影響もあった。
平成23年度と令和2年度を比較すると、400ml 献血者数は約6,000人減少している。
今後も各委員の知恵をもって力添えしてほしい。
- ・Webによる献血の事前予約ができるようになったので活用してほしい。

事務局) 始めの方に大賀委員から質問のあった件ですが、健康アプリの登録者数は、令和3年3月31日時点で13,936人、本日令和3年10月21日時点では45,004人と、約半年間で登録者数が3倍以上となっている。献血による健康ポイントの付与は、令和2年度までは年1回だったが、令和3年度からは年3回まで付与されるようになった。令和3年3月31日時点では446人がポイントの付与を受け、令和3年度になり令和3年10月21日時点では、すでに1,344人に付与されている。こちらも、3倍以上の方がポイントの付与を受けており、献血に寄与していると考えられるが、今後も分析していく必要がある。

- | | | |
|-------------|--------------|---------|
| ・アプリ登録数 | 令和3年 3月31日現在 | 13,936人 |
| | 令和3年 9月30日現在 | 44,387人 |
| | 令和3年10月21日現在 | 45,004人 |
| ・献血ポイント付与件数 | 令和3年 3月31日現在 | 446件 |
| | 令和3年10月21日現在 | 1,344件 |